

■牛島謹爾 アメリカの生産を支配する“ポテト王”。人格高潔を称えられ、日本政府にも進言して“無官の大使”。

うしじまきんじ

禁門の変・1864=

筑後国久留米で、二百年来の旧家で村役人まで勤めた農家の三男に生まれる。本名清吉。母には漢文の素養まであり、村人からは、相当の敬意を払われていた家であった。凶抜けて大きく成長し、長兄次兄が農事の手伝いをするなか、附近の子供を集めては餓鬼大将になっていたが、弱い者いじめには厳しく対処。

明治維新・1868= 4歳：

初の日刊新聞1870= 6歳：この頃、同村の手習い師匠のところに出されると、意外にも真剣に学び、

明治6年政変 1873= 9歳：

初の民間工場1875=11歳：原古賀小学校に入学。身体は15・6歳並で負けじ魂も強く、特別進級の恩典に浴すべく、時間外にも教師らの個人教授を受けながら刻苦勉強、遂に最上級に編入される試験を受けるまでになるが、

西南戦争・1877=13歳：同級生らの反対のに、教師らも同調するや、憤然と抗議し、

大久保暗殺・1878=14歳：退学、それ限り学校に行かなかった。同村の牛島万作・トセと養子縁組をして入籍し、

沖縄県編入・1879=15歳：相続したが、実際は実家に居り、やがて、漢学者の経営する八女郡の中洲中学に入る。

明治14年政変1881=17歳：漢学者江崎隣の北酒義塾に転学、

新体詩抄・1882=18歳：

同級生らが次々上京して挑戦するのを見てたまらず、

内閣発足・1885=21歳：両親の許しを得て上京。先輩や友人から英語を勧められるも譲らず、漢学の二松学舎に入学。猛勉強して、三島中洲に特別に大事にされるが、次第に実社会ではやはり英語が重要と悟るようになり、

国民之友始・1887=23歳：上京してきた久留米の後輩が高等商業学校受験に上京してきた時、一緒に受験するも英語で不合格になると、本格的に英語を学ぼうと渡米を決心、退学し無一文で帰郷する。旧友・旧師らを通じて父を説得、

初の対等条約1888=24歳：村人らから変人呼ばわりされるなか、横浜を出航。同船で後の大審院長三好退蔵と懇意となり、

帝国憲法発布1889=25歳：サンフランシスコに到着。三井社員となった親友から紹介されていた貿易商カイエリオを親切も固辞し、血洗い・薪割りをしたりして、転々とするうち、白人の常食である馬鈴薯栽培の有利性に思い至る。主産地がカリフォルニア平野であることを知り、農園に住み込んで事業を体験しながら貯蓄に励み、

帝国議会始・1890=26歳：種薯を購入し土地も入手、開墾等農業実務経験豊かな長兄に頼み込んで渡米を促し、

大津事件・1891=27歳：*独立耕作を開始、最初の栽培がハリケーンや大洪水で水泡に帰すも揺るがず、計画を立直したものの、財産を使い切ってしまったため、生活は困窮したが、次兄が優良な農民らを送ってくれ、多くの近親者も渡米して支援してくれたことから軌道に乗り始め、

日清戦争始・1894=30歳：

八幡製鉄始・1897=33歳：*経営の基礎を確立、飛躍的に拡張し、部分的の災害には何等の痛痒も感じない程になる。

子規句歌革新1898=34歳：母危篤の報で一時帰郷を決心、

ビノ国産化・1900=36歳：帰国すると、かねて番町教会牧師に探してもらっていた浮田和民の妻の姉四女子と結婚し、直ちに帰米。

家庭は妻に任せ切りで奮闘を続け、

教科書疑獄・1902=38歳：長女が誕生。_この頃には耕地は5000エーカーに及び、

日露戦争始・1904=40歳：実父が死去、長男が誕生。_収益も数十万ドルを挙げ、朝鮮調査に着手するが、日本人排斥問題が起こり、

日露戦争終・1905=41歳：

満鉄発足・1906=42歳：次男が誕生。_サンフランシスコ大震災で露骨になり、日本人が迫害を受けるようになるなか、

韓国反日暴動1907=43歳：*バーグレーに豪邸を新築。この頃には、“ポテト王”と呼ばれるようになった。在米邦人学童退学処分問題が起り、土地所有禁止法案が上提されるに至るも、

アヲボ創刊・1908=44歳：三男が誕生。_10万人の在米日本人会会長に推薦され、以後没するまでの15年間、日米融和のために献身。

伊藤博文暗殺1909=45歳：

韓国併合・1910=46歳：次男が夭折。_メキシコ調査に着手。

明治天皇没・1912=48歳：

21ヶ条要求・1915=51歳：_オレゴン州の経営を始めるなどするなか、その功で、勲五等に叙せられる。

本格政党内閣1918=54歳：

原敬首相暗殺1921=57歳：

治安維持法・1925=61歳：長兄が死去したこともあって、

日本時代始・1926=62歳：_帰国の途についたが、宿泊したロサンゼルスのホテルで脳溢血を起し、治療の甲斐なく没した。

勲四等旭日小授章が追贈され、在米日本人会主催の盛大な追悼会が行われ、大平洋を見下す高台に渋沢栄一揮毫の碑が建てられた。